第５回公共施設の整備に関する検討委員会会議録

１．日　時　平成２６年１１月１８日（火）午後２時～午後４時
２．場　所　市役所第１庁舎会議室
３．出席者　（委員）花井委員長、原副委員長、小松委員、船橋委員、出口委員、諏訪村委員、杉山委員、須藤委員、藤間委員、中田委員、田中委員、内藤委員
以上１２名
（市側）経営企画部次長、同総務課長、同施設企画室長
４．会議内容
（１）開会
（事務局）
本日はお忙しいところありがとうございます。委員の皆様お揃いになりましたので、ただ今より第５回公共施設の整備に関する検討委員会を開会いたします。開会にあたりまして、花井委員長より一言ご挨拶をお願いいたします。
（花井委員長）
こんにちは。先日は視察、行かれた方と行かれなかった方といらっしゃいますが、皆さんお疲れ様でした。今日傍聴の皆様も大勢集まって頂きましてありがとうございます。今日は図書館についての議論になると思いますので、時間をたくさん使いながら頑張っていきたいと思います。宜しくお願い致します。

(2)(仮称)熱海フォーラム整備事業基本構想について
（事務局）
それでは議題に沿いまして進めさせていただきます。次第の２になります。(仮称）熱海フォーラム整備事業基本構想についてでございます。今まで検討委員会や市民アンケート、聞き取りの調査、パブリックコメント等で頂戴いたしましたご意見を勘案しまして、お手元にあります冊子「(仮称）熱海フォーラム整備事業基本構想」として取りまとめました。
パブリックコメントについてでございますが、前回の検討委員会でご議論いただきましたように基本構想（案）につきまして、９月２６日から１０月２７日までパブリックコメントを実施いたしました。結果といたしまして１１人の方から２９件のご意見を頂戴いたしました。その内容ですが、「構想（案）に反映したもの」が２件、「既に構想（案）に盛り込み済みのもの」が２件、「今後の参考にさせていただくもの」が２２件、「今回の案には反映できないもの」とさせてもらったものが２件ございました。
そのうち「構想（案）に反映したもの」の２件につきましてでございますが、構想案のまず１件目が１５ページ、管理・運営方法の検討に関する部分でございます。ここの記載につきましては、官民連携手法ということでＰＦＩの手法についての説明、そのあとに閣議決定の文を載せてございますけれども、全国的な流れということで記載させていただきました。
もう１件につきましてですけども、最後の１７ページ目になります。今後の進め方の欄でございますけども、これの（２）の整備方針の記載のところでございます。この質問も

下から３行目になりますけれども、「サービス向上等の導入結果の意義、実現可能性、従来方式と比較した特長などの論点について、引き続き具体的な姿を検討するとともに、計画策定に向けてこれまで以上に分かりやすい説明を行ったうえで、導入の是非について検討してまいります。」という記載にさせていただきました。その他については、これまでと大きな変更はございませんでした。

今後はこの構想に基づきまして、具体的な機能について検討をお願いします。基本計画（案）を作成していきたいと思いますので宜しくお願いします。

それではここからの進行を委員長の方にお渡ししますのでよろしくお願いします。

（花井委員長）

それでは進行してまいります。１０月２０日に小布施と茅野市民館を視察してまいりました。小布施の図書館では、私が設計当時から携わっていたことがありましたので、みなさんに設計の意図や狙いをご説明させていただきました。具体的に言うと、壁を作らないとか、レイアウトを自由に変えられるとか、可動と言っていいのかどうかわかりませんが空間をうまく使えるような施設にした。資料も作っていくという、集めるだけではなくって自らが資料を作っていくというところもご説明させて頂いたと思います。

茅野市民館はかなり大きな規模で、あれだけのものがあればすごいなというふうに思われたのかなと思いますけども、図書館、まあ図書室の部分が駅に近いとこで、美術館の部分、特にホールが２つあったというところもありましたし、見応えがあったものかなと思っていますが、できれば最初に前回の視察を受けて視察に行かれた方々で、ちょっと感想を含めて感じた事だけでもいいんですけど、少しお聞かせいただければと思いますが、順番に行かれた方から。

（委員）

見学が平日の午前中で使用者の少ない時でしたけど、ゆっくりと説明をしていただきました。図書館の第一印象は天井が高く、温かい照明でゆったりとしていると感じました。１，０００㎡のワンフロアの中に一般用・子ども用・事務所等・蔵書などがすべてありまして、本箱・机など置いてあるものが全部可動でき、室内の形もすぐにレイアウトが変えられるということでした。また小さなイベント、子どもたちのためのちょっとしたイベントは、使用するときの場所も確保できるように、本箱とか机がすぐに移動できるようになっておりました。機能性に優れていたように思います。室内は直線と曲線でまとめられ、照明も人の目に触れない工法もありまして、大変に館内はすっきりとしておりました。子ども用の場所も小さなスペースで無駄なく有効的に使っていました。少し飲食などがしたい親子さんの為には小さなテーブルがありまして、そこに小さな水場も用意してあり、大変便利に感じました。

それに付随してですが、もし図書館の中で気分が悪い方、もしくは授乳などされたい方のために、室内の中に小さな小部屋を作るのではなくて、天井からのカーテン、ロールのカーテンをさっと閉めるとそこに小さな空間ができ、椅子や水場が置いてあり、気分が悪い方、子どもさんの授乳やおむつ替えなどにも使えるようになっていて、とても素晴らしいと思いました。

またトイレも普通は廊下にあるものと私たちは思っておりましたけれど、その図書館の

中に小さな何か分からないような物体がありました。それが室内の中にぽんと置かれていて、トイレとは思わなかったのですがトイレでした。出入り口は一切使用者からは見えないのですが、室内のこういうところに、ホイっとトイレが置いてあるんですが、それがとても小さなお子さんを持っているお母さんたちには便利じゃないかなということも思いました。

そして通常、常勤でいる方は２，３人のようでした。室内に形よく何気なく事務所の方々がいるような場所がありました。また事務所もすべてオープンでした。煩雑ではおりましたけども、綺麗に片付いてなくても使用者の方また市民の方に全部公開するという形で、どの事務所も整然と戸が全部あいているんですね。それもなかなかよかったかなと思いました。

そしてこの図書館すべて機能性に細かく富んでいまして、使用者のために温かい思いやりが一つずつ心配りとなっていた図書館でなかったかなと思います。ただワンフロア１，０００㎡のために、一般の方々、成人の方々と子どものと、右左には分かれていますが、日曜日に子どもさんたちの声が大人の方にどういう風に聞こえるのかなというちょっとした心配がありました。ただその面も市民の方々に大人は大人としてのマナーとして、子どもの声もうるさいとかは思わず受け止めていただいて、また子ども達のお母さんにはそういう公共性のマナーなどを子どもに覚えさせるためにも、ちょっとよいかなということも考えました。以上です。

(委員)

見学会はとても有意義で楽しかったです。建物もとても素晴らしくてお洒落だなという感じと、隅々まで配慮されて、いい建物だなと思いました。

ただ漠然と感じたのがすごくお金がかかるのではないかなと思ったのと、それが時代的に、今やっぱり成長経済ではなくて、どんどん税収が減ってきますので、そのあたりの兼ね合いをどうやっていくのかなというか、もっと質素であるものを有効利用して、もっとソフトの面で人々が繋がれたり温かい気持ちになれたり支援をし合っていけるような施設がよいのではないかと感じました。

（委員）

図書館とホール両方見させてもらいましたが、まず図書館については、私もあまり図書館行かない方なのですが、開放的でワンフロアで、これなら気軽に行きたいなというような感じは受けましたが、ワンフロアで先ほど委員が言われた通り、音も平日だったので気にはならなかったと思いますが、子どもがいた場合にどうなのかなとちょっと思ったところです。

ホールについては正直規模がとてつもなく大きなものであって、茅野市で市民が中心になって、いろいろな活動しているってことでしたが、熱海市の年齢層にもよると思いますが、あれだけ大きいものが必要なのかなというのはちょっと正直思いました。その中で小さいホールを見させてもらって、細かい席の傾斜だったり、後ろの方に子どもが遊ばせられるというか遮断されたスペースとかそういうのは良いところだなと思いました。

（委員）

まず図書館のほうの印象から。小布施は図書館の業界でも有名な素敵な図書館というふ

うになっていまして見させていただいて、大変勉強になりました。正直な感想ですが、図書館そのもの、建物は大変素敵なものだと思います。天井も高くて地元でとれる木材を使っているというようなことでしたし、家具類も木のものが使ってあって大変いいなと感じました。ただちょっと疑問に思いましたのは、図書館にスタッフが少ないということ、それと私が見る所かなり本がいっぱいの状態で、まだ開館５年なのにこの本の入り具合いからいくと、今後本が増えたらどうするのかというのがちょっと気になりました。建てるときにどのように増えていく計画を立てていたのかなというのがちょっと疑問に思っているところです。その辺も含めて、もうちょっと時間がありましたら、職員の方に聞いてみたかったなというところがあります。

ホールの方ですけども、大変素晴らしいホールで、ただ熱海と比較したらやはり大きすぎるのかなと思いますのと、あちらは駅の隣という立地で利用が高くなっているのではないかというのが私の想像なのですが思いました。

（委員）

図書館の方ですが、とても素敵で明るくてよかったですが、小布施っていうのは市ではなくて町で人口も確か１１，０００人ですよね。その規模でこんなに素敵な図書館がどうやって建つのだろうとまず思いました。それだけ財政の豊かということなのかなと思いました。それから丁度季節柄、栗の時期でとても賑わっていました。観光客も大勢いらしていて、道も渋滞していましたが、このように繁栄しているというか、活発な町だからこそなのかなと。市に合併することなく、自分たちでやっていける町という誇りのようなものを感じました。

それから図書館の中は、花井さんがいろいろなことを一つ一つ、壁から窓から天井からカウンターから説明してくださったのですが、どれの説明も検討委員で図書館を建てるための話し合いの中で、こういう意見があったのでこうなりました、ここは委員会の中でこういう意見が基になってこうなりましたって、すべて話し合いで検討委員たちの言っていた意見を基にして作ったということを何度もおっしゃっていました。花井委員長が「よく僕が作ったって言われますが、そうじゃないんです」とおっしゃっていましたが、なるほどという感じで意見を組み入れて取り入れて、何度も何度も話し合いを重ねた末にできた図書館なんだということが説明からよくわかりました。

(委員)

図書館を見まして、皆さまのお話と同じように、コンパクトの中でも非常に思いやりだとか配慮が行き届いていて、しかも開放性があるなという感じがしました。例えば暖房、照明一つをとっても、非常に奇をてらっているわけではなくて、本当に使用している人のために配慮されたデザインだとか設計だなということを思いました。ですから熱海で仮に新しい図書館を考えるときに、やはり設計者だけの思想ではなくて、市民の皆様の意見を細かい部分まで反映できるということが、今後の熱海のホールとしての非常に重要なところなのではないかなという思いがしました。

一方、茅野市民館ですが、こちらの人口が５５，０００人ちょっとという町なので、熱海市の倍近い人口の町ですが、非常に大きなホールで、これが今いろいろ議論されているライフサイクルコストどれくらいかかっているのかということを聞き逃したのか、聞けず

じまいだったのか、若干その辺が突っ込んで聞けなかったのは残念ですけども、ちなみに稼働率のお話をされていましたが、美術館が８０％、マルチホールが６０％、コンサートホールが６０％、アトリエも６０％ということで、この数字を聞いただけだったので、これがどのような数字なのかというのも、もう少しお聞きすればよかったなと思いました。また茅野市ではですね、かなり大きなホールにも関わらず、近くの岡谷市というところに別に大ホールがあるということで、こちら１，５００名収容のホールということで、茅野市から車で４０分ほどということで、こちらの方も併用してホールの使い方を考えているということは、お聞きした中でのご報告とさせてもらいます。

(委員)

先程図書館ということで、図書館だけ申し上げましたが、茅野市民館について。人口が５５，０００人ということでしたが、それに５０億円かけて作ったということでございました。近くの諏訪に１，０００人入る会場、岡谷に１，５００人という会場がありますもので、ここのところは７８０席とか７００席ぐらいでということで作ったそうです。ゆったりと作ってありました。ステージ一つにしてもこの近辺で見られないくらいの幅や横幅・縦幅大きなものでございました。ですからあれを一概に考えまして、熱海市のとなると、まったく別物として考えなくてはならないと思います。コンサートホールは３００席でしたが、子どもさんの席がありました。それからマルチホールは各イベントのショー・音楽・演劇等ができて、それは私が聞いた時点では、稼働率が約５８％というお返事もいただいていました。そこが随所にヒノキも使ってあって、音響とか靴の音とかそういうものに対してとても配慮してありました。その他のリハーサル室も細かく見せていただきましたが、そこはリハーサル室といっても大変広くて、和太鼓の音は表に聞こえることはあるけど、普通の音に関しては一切聞こえないであろうということでした。そこは練習用にも使えますが、ミニコンサートにも使えるということで便利だなと思いました。ただの練習室・レッスン室ではなくて、ミニコンサートみたいなものもできるということでした。あとはイベントスペースなどがありまして、朝市・展示・パフォーマンスにも使えるということでした。ただ先ほど申し上げたように熱海であれが同じということは、とても望めないと思いました。

(花井委員長)

ありがとうございました。今いくつか感想がありましたが、疑問をもたれたことがあって、私から少し答えられるところだけは答えておこうかなと思います。

お金の面に関しまして、小布施町立図書館は約４億円ですね。私達としては少ない方。少なくリーズナブルに建てられたかなと思っていますが、ただ５年前ですから、今の人工の高騰とか資材の高騰からみると、今あれを建てるとすれば、もうちょっと高くなるかなと思いますけど、５年前とすれば４億円ということで。

いろいろ飛びますが、設計者だけではなくて、委員のお話にありました、まさにその小布施も茅野もそうです。茅野は何百回もワークショップやっていますし、小布施の場合は、５３回のワークショップをやっています。それは委員が言った検討委員ということになりますが、今私達がまさにやっている検討委員というのは、基本構想を作ってもらいました。そこには私はいなかったのですが、それを受けて私と５０名の新しいワークショップ形式

の検討委員、それはもう決められた人ではなくて、その日だけしか来なくてもいいとか何回もやっていますから、全部来た人もいたと思いますが、分科会を作ったり、それを５３回やったということで、そこから出てきた意見が図書館の全てだと思います。いい話を聞き逃さずいていただけたのが、すごく嬉しかったです。

本が増えたらという、委員。それは最初から本は増え続けて、絶対棚が足りないというのは、プロポーザルのときに言われました。規模が小さい図書館で本は絶対増えると。そのときに出てきたのが、私達がやっているまちじゅう図書館という意見で、まちの中に本を出してもいいじゃないかということがコンセプトにあります。ただ実際できるかというと、かなりの資金がかかるものですから、今の段階では図書館が持っている本ではなくって、民間の人が持っている本をその中に置いているということをやり始めています。ただプランの中には諦めていませんでした。本当にシステムを各所において、そこでＩＣタグをつけて、まちじゅうに本棚を置けないだろうかというのは、本気で議論していましたので。ただそれを実際すぐには出来ないということで断念しておりましたけども、私達の中ではいつかそれをということで見守っていたというのが段階です。

もう一つ工夫しなければいけないのは、選書の方法。かなりもう少し選書を上手く出来ないものかということ。何でもかんでも買っていくのではなくて、相互貸借を利用しながら。全て揃うというよりは、ホールと一緒かも知れないですけど、近くのものを利用してここの図書館に何があれば一番便利かというのを、広範囲で見ながら運営をしていこうという意見も出ていましたので。そこに追いついているかというとまだまだかな、まだ５年目ですから、これからかなという風な構想であの図書館はやっています。

ホールについて内情は設計者が同じぐらいだということしか知らない、ＬＣＣも市役所経由で聞けるのかなと思いますが、それぐらいが皆さんの疑問だったかなと思います。

(3)（仮称）熱海フォーラム整備事業基本計画（案）について

（花井委員長）

今回の基本構想案の１３ページに、図書館の機能について書かれています。ここに皆さんでもう１つ検討していただきたいことが、１３ページと合わせて３つのコンセプトと３つの機能ということが、別の資料で皆さんに配られていると思います。ここに建物の３つのコンセプトと３つの機能。そしてそこに図書館の建築の概要とか運営とかいろいろ書かれています。ここを今日の議論の中で、３つのコンセプトと３つの機能を充分に把握していただいて、この中で議論していきたいなと感じています。

それと図書館の方では、そこに主な課題というのも挙げさせていただきました。一つひとつ読みませんが、この７個の課題があります。ただその課題をどう見ていくか、現状を踏まえたうえで、この３つのコンセプト・３つの機能のどうやっていくかというのが１番下に書いてもらっている資料になると思います。市民が集う場としてのどういう図書館なのか、次の回はホールになっていきますが、そういう観点から、皆さんに議論して頂きたいと思っております。

また別の資料、ゆかりの文化人とか温泉の資料がありますが、今日は図書館から、私の

後ろに古地図とか本を出していただいています。終わったら、じっくり見てもらいたいと思いますが、その辺これはどういうものか、委員からご説明いただければ嬉しいなと思います。
(委員)
　私からは皆様のお手元にあります『主要貴重地域資料リスト』というのをご説明させて頂きたいと思います。
　事務局から図書館が所蔵しているもので貴重なものをリストとして挙げてくださいという要望がありましたので、このように挙げてみました。挙げているものの１０番目までは他の美術館・博物館から自分のところの特別展を開催するときに、ぜひ熱海の図書館で持っているものが良いものだから貸してくださいということで、依頼があって貸し出したものです。ＭＯＡ美術館ですとか、神奈川県立歴史博物館ですとか、そちらから貸してくださいと言われて貸し出しました。他から貸してほしいと依頼があるものですので、大変良いものだと言えると思います。これだけが熱海の図書館に眠っている良いものだということではなくて、他からほしいと言われるくらい良いものだということで１０番目まで挙げさせていただきました。
　中でも一番引く手あまたなのは、４番『名勝百景　熱海夕照』という浮世絵です。大変きれいなもので、これは坪内逍遥先生がそもそもお持ちになっていたもので、熱海の図書館ができたときに寄贈になったということで、今図書館に所蔵されております。これに関わらず、熱海の図書館は来年１００年になりますが、逍遥先生の本をもとにしてできた由来から、貴重なものの中には坪内逍遥先生がそもそもお持ちだったというものが多いです。
　１１番目の『熱海新聞』。こちらも今熱海新聞社に原紙がないということで、必要があるときは必ず図書館に見に行ってくださいと言われるものです。ですので、特に昭和３０年代から４０年代にかけてが多いのですが、熱海が温泉地として一番栄えた時代で、そういうときの栄えていた様子、新婚さんがたくさん駅に溢れていますとか、そういったものをテレビ局が多いですが、番組にするときにその証拠として新聞を載せたいという話が出たときに、熱海新聞さんにはないので、図書館のものを使うということが毎回行われています。ただ新聞ですので古くなってしまうと、とても状態がよくなくなってしまって、特に一番需要が高い３０年代から４０年代のものが、非常に悪い状態で、保存されています。こういったものが図書館に古くからあって、地域資料といわれるものを集めていました。それでまた次の世代にまで伝えていかなければならないというところの証拠になるものですね。
　どこの図書館も地域資料といわれるものは、収蔵して集める努力をしますし、保存していくというのが仕事の一番大事なものですが、特に熱海の図書館は１００年という歴史があるものですから、１００年昔のものから順繰りにありますし、また先ほど申し上げた通り、坪内逍遥先生からいただいたというものがあります。それが江戸期のものが多くて、そういったものも所蔵しています。これはどちらかというと、美術館・博物館に近い要素ですが、熱海の場合、美術館・博物館というのがきちんとないものですから、それもありまして熱海の図書館所蔵ということで保管しております。ただこれらのものはちゃんとした収蔵庫がないので、普通の郷土資料室と言われるところの隅っこに置いてある状態で、

望めるのであればといいますか、絶対欲しいのですが、今度新しく図書館ができるときは、空調設備ですとか、そういったものがちゃんとしたこういう貴重なものをとにかく入れられるところ、美術館・博物館の収蔵庫にあたるところです。そういったものがぜひとも必要かと思います。そういうのをちゃんとしないとやはり紙のものが多いので、どんどん傷んでいってしまいます。やはり熱海の宝の品だと思いますので、そういうのを保存していくということが、そういう観点が非常に必要だと思います。

(花井委員長)

ありがとうございました。それでは具体的に皆さんからご意見を頂きたいと思います。一番下に挙げているような事柄を中心に、レイアウトを少し含めながら、小布施町を見ていただいた通りワンフロアという考え方も一つの手ということにもなりますし、そうではなくてもっと従来型ということも合わせて、考えられるところを、視察を含めた意見また皆さんが勉強されている中の意見でいかがでしょうか。

（委員）

前回の９月１９日の検討会を欠席いたしまして大変申し訳ございませんでした。委員さんからは、委員が来てないから経済界の意見が頂けないということで、議事録を読ませていただきました。

ちょうど９月１９日、藤枝の図書館がある複合ビルで会議がありまして、どうしても出席しなければならないということで、ちょうどいい機会だったので図書館の外観だけ見させていただきました。非常にシンプルで、ワンフロアに収まっていました。天井も高くて、会議室が２つありまして、そのうちの１つの会議室を使いました。防音の環境もいいという状況でありました。議事録の皆様のご意見、それから今日、視察した皆さんのお話を伺いますと、やはり図書館は基本的にはやっぱりシンプルでいくのがいいのかと。そしてソフトの部分で、先ほど委員もおっしゃいましたけど、温かみだとか、いろいろな細かい思いやりだとか配慮だとか、そういうものを付け加えていくことが図書館の魅力につながるのではないかと思っています。空調の整った収蔵庫が必要だとか、細かい部分や重要なものは取り入れていきながら、進めていけばいいのかなと思います。予定の敷地に図書館をもし今と同じスペースで入れるのであれば、２階ぐらいが必要になると。１階だけのワンフロアで全部収まると言ったら、ちょっと難しいなと思いますので、２階の部分で収めていきながら、機能もどのような形に収めていくのか、そのところがこれからの議論になってくると思います。

(委員)

先ほど図書館を見学した感想を申し上げましたので、やはりこの町の図書館に必要なものというのを、皆さんからの意見を抽出してそれをまとめ上げていく仕事が一番大変だと思いますが、この町ならではのコンセプトと仕様で作り上げていくべきだということです。

もう１点、先ほど申し上げ忘れたのが、小布施の図書館にはこの町で行われた講演会ですとか、あるいはコンサートだったか、ＤＶＤにして記録をされているということで、新聞の保存状態が悪いとか、そういうお話を伺いましたけども、これからはやはりデジタルを使った保存の機能ですよね。これが本を読むだけが図書館ではないということを、最初からお話を伺っていましたので、こういったところにも非常に工夫を凝らせばよろしいか

なという思いがしました。
（委員）
　前回の視察には行けなくてとても残念でした。先ほど委員からいろいろお話を伺って「とてもいい施設だったよ」ということで、余計に見られなかったのが残念です。図書館の事ということで、先ほど委員からのお話で、熱海にはこういった宝物があるので、ぜひそういったものを子どもたちの目にも触れられるように、ちょっとしたミニミニ美術館というかそういったもので、こういったものが見られたら、これから大人になっていく子どもたちにとって、熱海ってこういう歴史があるよということを伝えられる一つの場所になるのではないかなと思いました。
（委員）
　これ、一番下の事を話せばいいんですかね。
（花井委員長）
　基本的には３つの機能・３つのコンセプトを踏まえてことを考えていただけると、熱海ではこんな感じとか。
（委員）
　熱海の今の図書館は協議会もありませんし、支えるような図書館友の会とか、ボランティアの会とかが何もないです。ボランティアの会は、私がやっている熱海読み聞かせの会だけです。あと製本教室とかはありますが、図書館そのものを関心を持って一緒に図書館を作り上げていこうっていう動きが全くないのは熱海の図書館です。今は。静岡の方の図書館に行きますと、友の会もありますし、いろんな会が図書館に関わっています。全国的に見ても、いわきの図書館は市民活動を大変図書館自体が応援していると聞いています。市民が集う、市民参画の市民が集う場ということも、どこかに入っていましたが、もっと図書館に関心を持っていただいて、一緒に図書館を応援していって一緒に作っていくという気持ちに市民がなるような、なにかもっといろいろな発信したりとかもしくは募集したりとか、ちょっとどうしたらそうなるのか分かりませんが、一緒に新しい図書館を作っていこうという雰囲気というか、活動というか。今のような無関心ではなく、もっと力を市民の方からいただくような、市民と役所側でいい図書館を作っていくという思いが、もっと盛り上がるといいとすごく思っています。それがないと、どんな図書館にしたいかというのは。話が変わりますが、自分の住んでいるところの図書館しか知らない方々がほとんどです。他の図書館がどんないい活動をしているかは行ったことがないので何もわからないので、本を見るとかテレビ見るとかっていうのは分かるかもしれませんが。熱海市民、私も含めて、どんなふうに図書館を利用できるかというのが、分かってない方が多いのではないかと思います。いろいろな活動をしている図書館が全国ではありますが、そういう意味で言うと、熱海の市民、私も含めてですが、もっともっと図書館には可能性があるということを分かるようになるといいなといつも思っています。
　ですので、市民を支えるような、自分も熱海の図書館しか知らないので分からないですが、そういう意味でもっと市民が関われる図書館ですかね。例えば検討委員会で図書館だけ集まってきても、どんな図書館にしたいか意見が出ないこともあるかもしれないと思っていたりもしますので、そこが一番心配でこれから図書館が立ち上がった時に、いかに人

が集まるかということになると、図書館の運営とか企画に関われるか、市民そのものが一緒に活動できる図書館になればいいなとちょっと思いました。
（花井委員長）
　そこに忘れないようにしたいので、少し感じた事を私も述べさせてもらいたいのですが、その通りだと思います。経験上から言うと、それをするのはここにいる検討委員の皆さんがやっぱり近所でも家族でもいいので、図書館どんなことをしてくれたら、どんな場になったら行きたくなるだろうっていうリサーチがすごく重要になると思います。そうしないと次のステップアップにいかないと。もしこの後、私たちがやったようなワークショップが行われたとしても、参加する人たちは図書館にどんな愛着を持つか、図書館がどんなことをするのか、イメージが湧かないと思います。例えば私が言うのは既成概念。図書館は本読むところでしょと思っている人たちが、大多数なわけですが、私達がやってきたような図書館はラジオ体操だってするとか、もっともっと子どもたちの体操もするし、あとは美術系のワークショップもする。ということを投げかけたときに熱海ではどんなことをしてくれたら、する場所だったら、図書館に行ってみようかなというような、これからはどんどんリサーチをしていかなきゃいけない時間になっていくのかなとちょっと感じました。それができればニーズも捉えられて、そしたら無理矢理ではないですが、来てみたいとか図書館の意見を言いに来てみないかということがあると思います。
　それは今日来ていただいている傍聴の方々もそうかもしれませんけど、何か思ったことがあれば委員さんに教えてもらったりとか、市役所の方に伝えてもらったりとか、何か図書館というとこにこだわらないで、今これからの時間、１時間ちょっともそうですが、図書館というものにこだわりすぎると、いつも言うような図書館にしかならないかなと思いますので、もっとその殻を破った議論が出来ればなと思います。
（委員）
　今のお話にも少し通じるかと思いますが、私もこれまで図書館に関わる人、あるいは図書館への情熱を持った人や図書館への関心のある人のご意見、声というのを割と伺う機会があったかと思いますが、そうではない人・関心のない人・行かない人、そういう方の意見を聞く機会がどこかであったらなというのは感じました。なぜ行かないか、なぜ図書館を頼りにしないか、そういうのを聞けたらなというのが一つです。
　もう一つ、先ほど委員のお話でもありましたが、この熱海に貴重な資料がこれだけあって、それを図書館が持っているというのは、やはりちょっと不思議なところです。私も教育委員会の部署、特に文化財の担当にもいたことがありますけど、郷土資料館というのは、伊豆山には伊豆山地区の郷土資料館ありますけども、熱海市の温泉資料含めた郷土資料を保管して、それを生かしていく場面はなかなかないので、それを今図書館に担っていただいていますが、こういう機能が必要であると。ただこれは組織として図書館に任せるというのと別の話として、熱海市にも郷土資料を保存し活用する機能が図書館と近いところで文書と造形のものと区分けはありますし、法律の縛りとか制限で図書館法でできる範囲は当然限られてくると思いますけど、やはり近いところで密接な関わりをもって、郷土資料と図書というものを相互に活かすような関係にある場所というか、組織というか、そういうのが必要かなと思いました。

ただこの熱海フォーラムの面積を考えると、保存と図書館と郷土資料館を一緒にするのか、あるいは２つの資料を保存する場所と生かし活用する場所を分けるのか、そういう工夫をしないと、ちょっとあの場所で全部の機能を担うことはできないと思いますが、いずれにしても郷土資料と図書というものを近い位置でお互いに生きた形で使えるような大きな意味での図書館が理想的だなという感じを思っております。

（委員）

今、委員から出たお話の補足というか付け加えですが、いま熱海市には郷土資料と言われるものを保存しておくところがございません。郷土資料館というようなものがないため、本来図書館で収集すべきではないと言いますか、向かないものも図書館にとりあえず保存しているような状態です。ただ一般的に図書館には向かないものというのは、やはり図書館では扱い兼ねる部分があって、どうしたらいいでしょうというような状態になっているものが、かなりの数ございます。図書館はやはり紙のもの、冊子のものが本来収集するベースがありまして、それ以外のものはなかなか手がつかないということです。そういうものも含めて熱海にとっては貴重だけれども、図書館で保存するのはちょっとというようなものを主に収集する。名前はなにがいいのか分かりませんが、郷土資料館でしょうか、的なものを作るべきかと思います。ただ図書館の機構としては分けた方がやはり分かりやすいのかなと思います。図書館にあるものは原則的に公開しないといけませんし、ちょっと一般の方には分かりづらいのですが、図書館の資料として登録しないといけないです。検索できなければなりませんし、これと言われたら出せるというのが原則です。ですので、そうではない雑多なものは、やはり図書館には向きませんので、郷土資料館のほうで、郷土資料館というと建物みたいになってしまいますので、郷土資料室のようにはなるかと思いますが、そちらを是非作っていただいて、そこで管理をするということがいいのではないかと思います。

それがまず１点と、もう１つ私から申し上げたいのは箱の問題ではなく、スタッフの問題です。今の話とはずれるのかもしれませんが、今皆様のお手元にある主な課題、１枚ものの紙の真ん中にある、主な課題のところが１点抜けておりまして、一番重要なところですが、今の図書館カウンター業務をボランティアさんが担当しています。メインのカウンター業務をボランティアさんがしている状態です。普通の方はそれの何が悪いのという風に言われるかもしれませんけど、業界的に考えるとありえないことです。多分全国でもやっているのは、熱海ぐらいじゃないかというぐらいの話で、カウンター業務といいますのは、図書館の顔で本来専門的な業務です。それをボランティアさんがただ単に人が足りない、人件費が足りないという理由でやっているというのは本来ありうべからざることですが、現在熱海では行われています。ですのでどういうふうに建物がなったとしても、新しい図書館では、本来図書館の主たる業務であるカウンター業務も図書館のスタッフがやるという体制にしなければならないのではないかと思います。それに付随して専門職員の不足というのが出てきますが、現在私だけが専門職で司書の資格を持っている状態で務めておりますが、本来１人だけというのは大変よろしくないことですので、複数置くというそういう体制を長年にわたって維持できるというソフトな面、それをぜひ考えていただきたいと思います。

（委員）
　今回のコンセプトの中に、『市民が集い交流し』とありますが、私もこの委員になって周りの知り合いとかに聞きますが、図書館にそもそも行かない人が多くて、行っている人がほとんどいないのが現状で、妻が本を借りには行きますが、そこでいたいとは思わないとか、あまりにもちょっと図書館と市民が集うというのは、正直かけ離れているような感じがして、図書館だけでこういう目的を達成するのは、なかなか難しいのかなというのが正直な気持ちです。それのためにはやはりそういう他の付加価値のある機能、別の機能を持って、そういう図書館の利用頻度を上げるというようなことで集う場を構築していくような方がいいのかなと思いました。
（委員）
　ここに３つのコンセプトの最初に『豊かな暮らしの創造』とありますけど、やはりここを徹底的にどういう暮らしが豊かなのか、どうすればみんなが幸せになるのかということを、きちんと議論していかないといけないと思います。その中で重要なものを、人のシステムであったり、そういうものをどう整えていくかということをもっと具体的に考えていかないと。ぼんやり豊かな暮らしってどうしたらできるのかっていうのは、個々皆さんいろいろ思っておられると思いますが、ここをきちんと皆さんで議論して明らかにして、そこを前面に具体化していかないと話が進んでいかないのではないかと感じています。私自身はやはり内面の幸福感をバックアップするような、そういった施設がこのフォーラムではふさわしいのではないかという考えています。それを具体的に教育の方に振っていくのか、市民が集う方に振っていくのか、もっとやさしい方に振っていくのかっていうのはいろんな方向があると思いますが、やはり核になるところをしっかりみなさんで確認しあって同じ方向を向いてやっていきたいと思います。
（委員）
　３つのコンセプトを今委員からもお話がありましたけども、『豊かな暮らし』というところです。どのようなまちづくりをめざし施設はどう寄与していくのか。公共施設、新しいものが出来るということは、次の熱海を作っていく、まちの中でも中心的な建物になってくるのではないかと。まちづくりとはそういった公共施設の周りが徐々に活性化して発展していくものだと私は思いますので、この図書館が市民にどう受け入れられ、また市内外の方からどういう目で見られるのかということを考えると、図書館のクオリティを上げていかないといけないという答えになると思います。図書館のクオリティを上げていくものは一体何かと考えてしまいますと、静かに本が読めるとか、いろいろ勉強ができるとか、非常にスタイルはシンプルになってきて、機能的なおもしろいものというものが、そいでいかないといけない。そうなってくると、逆に好きな人しか行かない図書館になってしまって、委員長からもお話がありましたけれど、利用者増やしていくというところと逆行してしまうところのそのジレンマみたいなものを抱えているのかなと感じます。ですので利用者を単純に増やすためにイベントということを考えがちになりますが、建物のソフト面で、本を読まなくても人が来るような何かを考えないといけないでしょうけど、それは広く又市民の方たちの意見ですとか、専門の方とか、意見を集約して導き出していかないとならないのかなと思います。なかなかこの場では、それがどういった形がいいのかという

のは、答えに窮するところであると思います。まちづくりの次の熱海を作っていく中心的な建物になると思いますので、小布施の図書館のようにいろいろな人の細かな意見が反映されるような、そういう魅力的な図書館であってほしいと感じます。
(委員)
私達は図書館に行くときはくつろいだ、ゆったりとした、自分の時間がほしいために行くのではないかと思います。また、子どもさんの親御さん達がそこに行ってゆっくりと時間を取って、子どものために何か本を読んであげたいという気持ちで行くところだと思います。それとは別に現在の図書館は、３階から５階に１，５００㎡。それで階が分かれているために、職員も多くいなければいけない。またとても利便性に欠けています。その声はたくさん聴きます。今度の岡本ホテルの跡地に建つのは昔の文化会館に近いところであって、みなさんが大変待ち遠しいという声も聞かれます。近くて今度は通いやすいという声も多々あります。先ほどから皆さん言ってらっしゃるように、人が出会うところ、そして人が繋がるところと考えたときに、出会う場所があるから人と出会う、そして人が繋がるということなります。出会う場所が今度図書館でありホールであり、市長さんがおっしゃっているように、市民の憩いの場所ということで、そこにできるわけです。私もずっと考えていましたが、図書館は本を読むところ、本を借りるところとしか普通は考えないですね。一般的に皆さんのお声を聴くとそういうことです。だから必要がない、行かないという方も多々います。ですから、皆さんおっしゃっているように、本を借りる、本を読むだけにこだわらず、もし本の中に、たとえば何かそこで簡単なものでもできるワークショップみたいのものの部屋を作っておけば、小布施にも小さな部屋でしたかありました。小さな部屋に更に間仕切りがあって、小さな部屋でも二つ使ってワークが出来る。そういうとこりへ、例えばちょっとした催しもできる。大きなイベントということになりますとまた大変になりますので、ちょっと図書館で何かこういう本があった、折り紙教室でも何でもいいです。そういうことを数多くできるといいと思います。そしてまたお年寄りも熱海は年々増えていますから、元気なお年寄りもたくさんいらっしゃいます。そういう方たちと、子ども達との接点を何か作ることもいいのではないかと思います。そして昔の文化会館、皆さま覚えていらっしゃるでしょうか。郷土資料みたいな、発掘されたようなものがちょっと飾ってありました。ですから市民ホールを作るときに一つの部屋をどうしてもとれなければ、広い廊下であった場合、ガラスケースで展示して見ることもできると思います。一つの部屋を作らなくてはいけない、郷土資料館を作らなきゃいけないということにこだわりすぎると部屋が取れない場合もあるかと思います。ですが、広い廊下があって、そこにガラスケースみたいなもので、納めるようにすれば郷土資料、もしくはまた熱海で発掘されたものも展示できて、それは人の目に触れなければいけないわけですから、例えばホールを使ったとき、展示場を使ったとき、その方々がさっと見られるようなところにある事が望ましいと思います。郷土資料館と形づけて、部屋がとれるということはないですが、そういうことができない場合には、簡単に形を変えてもいいかと思われます。
(委員)
今皆さんの話を聞いていて、大体意見は出尽くしてきているのかと思います。私が一番感じているのは、図書館の一番の機能は何かということです。基本的なものをおさえて、

そこから人に優しいとかいろんなものが発生してくると思っています。
　図書館については、資料やいろいろなものを調べに行ったり、静かでそこで読むとか、そういうことが図書館の基本ではないのかと思います。ただ子どもたちも来たときに、子どもたちをどうするのかといったときに、本に親しませるためには子どもの頃からそういう場所に来て頂くというのは、大事なことだと思います。ですから子どもたちの寄るところと、大人が静かに過ごせるところ。こういうところをきちんと区分けした中で、図書館としての機能をやっていくべきではないかと思います。ただ今回は委員からもありましたが、今のところが３階から６階で、ワンフロアで全部の事ができないことが利便性に欠けているところだと思います。今回はどういう形になるか分からないですが、敷地面積からいけばワンフロアでかなりの部分が取れるのではないかという感じがします。その中で、一つは図書館、それと先ほどお話があった資料館。資料館と図書館は、性質・性格も全然違うものだと思いますので、その辺のところも図書館と資料館っていうのは、やっぱ分けて話していかなければいけないかなとみなさんの話を聞きながら思いました。委員長がいろんな新しい提案をしていただいて、本当にそれは素晴らしいと思います。今どんなものが新しいものが良いのか、ちょっとまだ私には見えてこないですが、そこのところは私たちが話した基本的なものです。そのあとにまた検討委員会、今度は専門職の専門的な話し合いが進んでいく中で、お話ししていただいて一つのものを作り上げていけばいいかなと思いました。
（花井委員長）
　ありがとうございました。副委員長がおっしゃったように、皆さん出尽くしている部分あると思いますが、まだ具体的にここというのがまだ出ていないような気もしますが、実際その極端な言い方をすれば、ワンフロアなのか、いや部屋を区切ってやるのかというところも少し議論の対象かなと思いますし、防音をどうしようということになると思います。小布施の場合は防音しないということを会議で決めました。それは町民の５３回のワークショップの中で防音しないというのを設計者と決めましたが、防音しない限り、どうするのかというのは、タイムシェアリングをしましょうと。静かな時間・賑やかな時間が交互にやってくるわけですけども、小さな図書館しかないですから、そこはみんなとシェアをしながら、ちょっとずらせば静かな時間になる。賑やかな方がいい場合は賑やかな時間に来ればいいって基本的に本は借りていただきたい。狭いということで、かなり僕らにとっても制約をつけたところはありますが、その中でどうやろうかと知らない人たちとやっていかなきゃいけないというところがメインになったのかと思います。まず図書館が本だけではなくってボーってくる人もいるし、小布施の図書館は寝ていても文句言われない図書館ですので、寝に来る人もいるし、どちらかというと人寂しく誰でもいいから姿を見たいというふうに来る。あと、賑やかな利点としては、障がいのあるの方が多く来られるようになりました。やっぱり静かだと、障がいのある方は図書館が入りにくいです。障がいのある人も気になってしまう。ここは僕たちのリサーチの結果で出たのは、賑やかだからということとＢＧＭかけているというのもありますが、障がいのある人が団体で来られたり、お父さんと障がいのある方が毎週のように来られるとか。そういう面から見るとかなり、ワンフロアというのは少しいいのかなということもありますし、そういうことも皆さんの

中で感じてもらいながら、例えばこうだったらどうなのかとかいう意見でもいいですが、出していただければありがたいと思います。この３番目の人と人が繋がる図書館ってどんなものかっていうところが、集うことに関係してくると思います。私も小布施の図書館のことばかり言って大変恐縮ですが、そういう方法をとると、一例として２万人しか使っていなかった図書館が１４万人使うようになりました。ここを見ても使っていない人が気づかれたのではないかと思うので、熱海だったらこういうところに気づいてないのではないかというところがもしあれば意見を。直感でも何でもいいと思うので。

（委員）

最初の何回かのときに言ったかと思いますが、やはり今の図書館はすごく入りづらいというように感じます。今回は立地も歩く人が割と多い場所ですので、そこを歩いている方が自然に入ってこられるような、そういうシステムにした方がいいと思います。

（花井委員長）

他にどうでしょうか。

（委員）

今度建設予定地の前に、確かサロンみたいなのものがあって。いきいきプラザの隣にサロンみたいなものがあって、ご年配の方たちが日中談笑していたり、カラオケとかありましたかね。福祉会館ですね。温泉もあったりして、非常に皆さんゆったりとくつろがれているのを目にします。ああいう方たちがふらっと足を伸ばしていただくにも来やすいのかなと。今の図書館、車がないとなかなかいけない。バスの往来もないですし、タクシーで行くほどでもないと思います。建物が何フロアかに分かれていますので、階段と考えてしまうと足が遠のいてしまうというところもあると思いますので、今度は町なかの立地ということもありまして、普段そういったサロンでゆっくりされている人たちが、足をのばしていただいて、なおかつご友人たちとコミュニケーションをとれるような空間があれば、なおいろいろな人たちに受けいれられるのではないかと考えます。

（花井委員長）

私が妄想しても仕方ないですが、みなさんの話聞いているとそうかと思って。温泉地ですから足湯の図書館あってもいいのかと思いますが。僕はそんな図書館は見たことがないですが、鹿児島に行くとすごく長い足湯があって何１０台バスが来ても対応が出来ますという自慢してある足湯があって、お金のことは置いといてですが、人が入りやすい、歩いていてぱっと足湯って入りたいと思ったり。サロン的なものもあるし、そこで本読むというのは、ちょっと私の妄想ですけども、そんな感じを思いましたが皆さんどうでしょうか。

（委員）

また逆説的な言い方をしてしまいますが、私は図書館が入りやすくて、入館者数だとか貸出冊数を競う必要があるのかなというのが疑問に思ってもいいのかなという思いです。本当に必要としている人が必要としているときに質の高い時間を過ごすということであれば、何万人のまちだから何万人入って何冊貸し出したというのを別に競わなくてもいいのかなというのが一つあります。

もう一つ、先ほどこの会に遅れて申し訳ありませんでしたが、ちょっと人と会っておりまして、そのときに相手の方直接おっしゃったわけではないですが、ここに３つの機能が

あります。図書館と市民ホールと会議室。それから民間の機能ですけども、これを繋ぐようなところに共有のロビーとか広場とか何かそれこそ何の目的もなくてもふらっとやってくる人がいて、情報交換とか人の気配を感じて、例えば一人暮らしの高齢の方が、そこに来て一日子どもが走るのを見ているとか、そんな場所あってもいいのかなと。

そこにちょっと各論過ぎるのですが、先程言っていた話でチケットセンターのようなところ。そのホールの出し物からＭＯＡの企画展示、市内で開催いるいろいろなイベント。それこそ観光客は観光案内所に行きますが、市民が今日１日何をしようと思ったときにどこに行けば何をやっているというようなものを、案内できるブースなのか掲示板なのかテレビ画面なのか、そういうものがあって、そこを起点にしてどこかに出かけていく。あるいは今日図書館で新刊が入ったからちょっと読もうとか、そういうところから図書館に呼び込んでもいいのかなと。あるいは市民ホール・会議室等の部分でやっている講演会だとか催し物に出向いてもいいのかなとそんなふうに思いました。

それともう一つ。最前から出ているカフェです。図書館だけにカフェは必要ないですけども、図書館に行って良い本に出会って隣にいた方と感想を言い合ったり、市民ホールでのコンサート・催し物などに、感激を分かち合うようなスペースがやはり共有のロビーとしてあったらいいなというのが、今日お話出てきましたので、今の話にふさわしくはないかもしれませんが紹介がてら発表させて頂きました。

（花井委員長）

今の貸出冊数とか入館者数の数字ですが、1 つの考え方で、それがなくても予算をたくさんつけるトップであればそれはもう全然いらないと思います。使いたい人だけが使えばいい。マネジメントする側からいうと、何か数字をもっていかないと予算交渉できないというものがあります。そうした時に、今までは、貸出冊数を図書館でよく言われてきました。ただここ最近になって、利用者数・入館者数というのも言われるようになりました。あとはもう一つ言われるのは、満足度というのがよく言われますが、ただ満足度というのはなかなか数字が出来ない。一番満足度がいいのではないないかと思いますが、数字が出来ない。研究している人もいますけど、そういう時に入館者数とか貸出者数が一つの柱となって、働いている、そこの図書館スタッフの方、また来られる方、そこによってトップへの交渉というのが出てきますので、絶対とは言わないですが、多少なりとも交渉事にとっては数字というのは持っていかないと、やはり公共施設というのは一部の人が使っている公共施設であったら、どんどん予算減っていきますので、そこはやっぱり皆さんの市民への義務としてもこれだけ使っていただいているというですね、表現をしていかないといけないのかなと感じました。

（委員）

先ほど子どもの話が出ていましたが、子どもの声が気になるとか、もしくは気にならないという話はなかったかもしれませんが、それも一つの考え方かなと。小布施もワンフロアということで先ほど説明がありましたが、どういう形になるのか。今の図書館が使い勝手が悪いかもしれませんが、児童室は大人たちとは違う階層になるので、そういう意味から言えば使い勝手が悪いかもしれないのが、子どもの声は直接は聞こえないというふうになっていまして、どっちをとるかですが、熱海は人口が減っていて、子どもたちが少なく

なっています。子育てをする若い人たちたくさん住んでいただきたいということを考え合わすと、子どもたちが来たり、もしくはお母さんと一緒に来たり、お母さんが気にして「図書館は子どもがうるさいから来られない」となると、熱海市の場合は特にそれを思わせてしまうような図書館はどうなのかなと思って、どんなふうになるか分かりませんが、市民が、全員が子どもたちの声が聞こえていても、若いお母さんたちとかお父さんたちが利用してくれているんだな、こういう風に市民が使いやすく生活しやすい、住んでいる人たちが図書館を共に喜んで使えるところも一つの大事な目的かなと思います。これから人口が減っていくと言われていることを思うと。ですのでワンフロアになった場合、子どもの声も聞こえるかもしれない。聞こえても若い親たちを温かく見守れるかどうかということもひとつ考えどころかなと思います。静かにゆっくり本を読みたいから来ているのに子どもの声が聞こえるのはって、意見が入ってしまうと、今度は若い人たちが暮らしにくいということにつながるのではないかと、そこをちょっと危惧しています。

(委員)

小布施のときに、やはり拝見した時にそれは私も思いました。先ほど申し上げたように、大人が広い心もってそれに対してするか。それともお母さんたちが公共的なマナーを子どもたちに教えるか。それでもうるさいときはうるさいと思います。一人二人じゃないときや日曜日。ただ熱海の子どもたちは行く場所が何にもないですね。小学生にしても中学生にしても全然遊びに行くところがないですね。それでみんな市外に行くわけです。ですからせめてこの観光会館みたいなものができたときに子どもたちが何か集って、オープンカフェのような、レストランみたいになると子どもたちだけでは入れません。ですが、ちょっとした場所があれば、子どもたちがそこで集うこともできますね。そういう場所もぜひとも欲しいと思います。本当に熱海の子どもたちは行くところがない、遊ぶところがないという状況です。小さなお子さんはまだ公園みたいなのもあります。そしてまた図書館だから、本を読まなくてはいけないとかいう考えでなくて、図書館に行ってなんとなくみんなが本を見ている、そんな場所であってもほしいと思います。絶対的に本を借りなければ入れないというようなものでなくて、市民の人がちょっと入ってさらさらっと座ってみたりということもできるような場所であってほしいと思います。後はオープンカフェっていうものがありますが、熱海の場合あちこちちょっと小さなものがあっても　いろんな方が出入りしますね。ですから、私どももなるべくそういうところは座らない、衛生的な面も考えまして座らないようにしていますが、市のそういう施設もオープンカフェみたいなのが出来ましたときは、そういうことがないようになってほしいなというのも願っております。

(花井委員長)

ちょっと確認で、子どもたちというのはどれくらいのお子さん。

(委員)

小学生、中学生、高校生。高校生は定期を持っているから、沼津とか行きますね。ところが、中学生・小学生休みの日行くところがない、結局市外に子どもたち同士で中学生なんかは行ったりしていますね。小学生は遊びに行くところが小公園の 1 か所ぐらいですよね。本当にないです。

（花井委員長）
事例ですが、もし近所に行かれたらのぞかれっていた方がいいと思いますが、武蔵野市に武蔵野プレイスという図書館がありますが、ここは逆の発想をしまして、子どもたちはティーンズですね。ティーンズしか入れない階を作りました。大人は入れなくて、廊下は大人も通れますが、子どもたちはそこで何を食べようが勉強しようがそこでバンドの練習をするところもあるし、何か本当に子どもたちが建物の中で発散できるような設計がしてある場所もあります。そういうのも一つ、もしネットでみるとすぐ出てきますので、武蔵野プレイスも少し参考になるかなということ。
武蔵野プレイスはもう一つの参考になるのは、賑やかさを逆に表現したかったものですから、サイレントルームをちゃんと用意しています。どうしても、静かな部屋を考えがちだったのですが。静かな図書館で静かに過ごしたい中高生もいるわけですよね。その子たちの為のサイレントルームで、そこは大人も入れますし、そういう考え方もある。広く使えるのであれば、小布施の場合は面積が無かったですから、サイレントルームというのは諦めてタイムシェアリングという形を出したのですが。もしこの建物の中にそういうことが可能であれば、そういう面もみなさんの頭の中に少し入れていただければいいのかなと。これまでは静かな部屋にちょっと賑やかな子どもの部屋があっていいよという考え方が図書館だったのですが、全体が賑やかな中で小さな部屋がある、真逆の考え方をどこかにしていっても、新しいアイディアが出るかなと思いました。
（委員）
この間見に行ってきた函南の図書館には、子どものスペースとちょっと区切って、子育て支援の施設がありました。そこは室内で遊べるスペースと外でも遊べるスペースがあるので子どもたちが自由に行き来できるのかなと思いました。乳児はころころ転がって、絵本に親しんだりできるように絨毯のスペースがあったり、あとはちょっと大きい子どもたちには子どもたちの高さにあった本棚になっていて、そこで本を自由に出して小さいイスとテーブルで見られるスペースがあって、さらにちょっと動きたいなという子には、外に出ていって遊具で遊べるようになっていました。滑り台だとかフラフープとか。ですのでこういう場所があればお母さんたちもわざわざ遠くに行って遊ばせなくても、１日中過ごせるのではないかなと思いました。一角にはちゃんとごはんを食べられるように、ベンチとテーブルも用意してあって、そこで自由にご飯を食べたり、お菓子を食べたり出来るスペースも設けてあったので、そういったものも、場所に全部というと難しいですが、うまく今ある子育て支援の親子ふれあいサロンを使いつつ、拡大していってもいいのかなと思いました。
（委員）
私も函南を見てきましたが、子どもたちの居場所というのが、ちゃんとあって素晴らしいと思いました。今回の熱海フォーラムのこの施設を考えたときに、やはり静かな図書館というのをベースにしてしまうと人が集うということと、ちょっとずれてきてしまうかなという感じがします。基本的には、みんながいろいろコミュニケーションをとれるということを前提に置くと、みなさんが自由にお話が出来たり、走り回ったりできる場所で、静かなサイレントルームが別にちょっとあるというようなものの方が、時代にも合っている

し、集うということを考えるとやはりふさわしいと思います。
（委員）
　いますごく素敵なワードが飛び出してきていいなと思ったのが居場所ですね。コンセプトとして誰もが居場所作れる、それをどう住み分けていくかは先の話ですが、居場所を作っていくっていうのは魅力的なワードだとふと感じました。
（花井委員長）
　最初の方に委員がお庭が感じられるっていう、ゴロゴロできるとか、外に出ていくとか、そういう感覚の話が私の中にも漠然とですけどあったのですが、そういうのはどうですか。お庭のイメージというのは。
（委員）
　庭っていうよりも小公園というものをイメージしています。子どもたちも集えるし、うるさくしても大丈夫な感じで、その周りにワークショップが出来るような部屋があったりして、そうすると賑わいが。そこでワークショップをしている場合は賑わいが感じられて歩いている方々がそこで引き込まれていくような、そういう感じのものがいいんじゃないかなと思っています。
（花井委員長）
　少しずつふわふわですけども、皆さんの中で個人個人には、こんな形ができているのじゃないかなと思いますけども、
（委員）
　よく滞在型という言葉、委員が居場所と言っていましたが、居場所とか滞在型。図書館も本を借りてカウンターだけですぐ帰るのではなく、図書館のそれこそ居場所もしくはゆっくりそこで過ごすという言葉を使われているのをよく耳にします。居心地のいい椅子があったり、景色があったり、そういうところをコンセプトだとか分かりませんが、滞在型、コンセプトにしているところあります。すごく良いと思います。気に入った良い椅子があったら、ちょっと家具にはお金かけてもらいたいかなとも思いますが、景色とかあるかもしれませんが、図書館行ってみたい、そこの景色がいいとか、そこのすわり心地がいいとか、とにかくゆっくりできるとか何か分かりませんが、それぞれが何かの気に入った場所を見つけられるような施設があるといいと思います。
（花井委員長）
　他にはどうでしょうか。委員さん、どうでしょう。
（委員）
　私も古い人間だなと今つくづく思っています。図書館は静かな場所というイメージをずっと持っておりましたので、逆の発想というか、そういうのもやはりありなのかなと感じています。ここの場所は本当に人が一番多く集まる場所ですから、多くの人が足を運んでいくという形で談話室みたいな情報交換の場、そういう場所として談話室みたいなのがあると、いわゆる図書館利用している人というのは図書館仲間みたいな形に、顔見知りの人たちが結構多くなりますね。そういう人たちが、情報交換の場、自分が知り得たいいろいろな情報をもっておりますし知識もありますので、そういうものを交換しながら、和気あいあいと過ごす事が出来る場所をちょっと考えたりもしましたが、逆の形で賑わいの方も

中心として、静かな防音施設の場所を作るという形も考えられます。どちらがいいのかはちょっとなんとも言い難いですが。
(花井委員長)
　今、ずっとどちらかというとハード寄りな話も出て、ソフトも若干出ていますけども、あまり時間がないところ、ちょっと書いてないですが、さっき言った障がい者の方々とか、あと図書館に来たくても行けない方々へのソフト的な考えもどこか一文でもいいから、基本計画には入れていかなくてはいけないかなというように思いますが、そのあたりみなさん短い時間ですけども、利用的な弱者といいますか、そういうことに関して何か。
(委員)
　私が読み聞かせの学校の仲間たちにとったアンケートにも、障がい者のことがたくさん書いてありました。まだ車いすの通りにできるときは、図書館の間が必要とか、トイレの事とかも書いてありましたし、あそこの坂の途中にあるのでそういう面では、車いすとか行く時の事とか、書いてあったと思います。
　違う話になってしまいますが、場所から行って熱海の図書館が当然一個しか作りようがないわけですが、学校図書館ともっと関わることを考えた図書館にしていただきたいなと思っています。学校図書館と市立図書館は繋がってないです。ネット上というかパソコン上で。システム上でぜひ繋げてもらいたいと思いますし、函南に行ったときそうでした。館長さんが言っていました。各小学校が全クラスでしたか、図書館に見学に行っていると言っていました。図書館の使い方とかもそうですし、いろんなこと話をしたりとか、それから図書館員がおはなし会開いたり、ブックトークとかしていますが、熱海は今度の図書館のあるところの学区はそんなにないです。もっと離れている初島も泉も伊豆山も多賀もとても遠いです。ですが学校で一度行ってみて図書館ってこんなところだって知ることが、すごく大事だと思います。また子どもたちが行きやすくなったり、図書館のことを大切に思ったりするかもしれないと思っています。
(花井委員長)
　いま良い話が出ましたが、もうちょっとだけ障がい者の方へのサービスというので、何かご意見ありますか。委員どうですか。
(委員)
　ユニバーサルデザインですとか、そういった文言というのは間違いなく盛り込まれるものだと思っていましたが、その中でバリアフリーですとか、プライバシーの確保ですとか。私、とある経済団体の社会貢献で、県立の熱海高校に出前の授業に言っておりまして、そこのトイレを施設として全部見せて頂いたら、全部和式便所でした。和便和便ってよく言いますけども、これは３０年前は規格値だったと思いますが、今、当然高校生たちは、例えばデパート行ったりテーマパークいったり、サービスエリアに行ったら、ほとんど洋式の便所だという事実がそこにありまして、学校の先生方は、もうさも当然のごとく、和便ですけどという言い方なんですね。こういう格差が３０年の間にかなり出てくると思います。ですから、やはりユニバーサルデザインは当たり前だといってもしっかり言葉としてあるいは具体的な形として、盛り込むべきかなという経験をしました。
　もう一つＰＴＡの関係で申し上げると、やはり小学校も和便が多いですね。当然バリア

フリーなんてほとんどない。一番新しい新生熱海中学校はそういったものが配慮されていて、しかも地域のコミュニティの方もその中に入ってこられるような設計をされていると伺っています。一方で、一番古い多賀中学校は本当に段差があって、間違いなくエレベーターもないので、障がい者の方はそこには入れない。すべて和便だというような認識なんですけども、新しいものはやがて古くはなるのですが、今の一番トレンドというか、必要なユニバーサルデザインというところでは絶対外してもらいたくないですし、あるいはそういった各コミュニティや団体の方々とのワークショップというのも、いろいろばヒントをいただけるのかなという体験をいたしました。

(委員)

トイレに関してはですね、旧文化会館も和式でした。私も市の方に対して、足の悪い方たちが文化会館を使用しますので一つでもいいから洋式に換えてほしいということを再三相当な年数言ったつもりですが、とうとう使えなくなるまで直してはくださいませんでした。それと旧熱海中学校の校長先生のご案内で、数年前に熱中がどれほど今壊れているかということで拝見させていただいたときも、もう幽霊が出るようなトイレでした。熱海中学校も壊れているところもあり、戸は閉まらないというような、こんなところで未来のある子どもたちが、こういうトイレを使っているのかと思って、本当にがっかりしました。旧観光会館でもトイレの事は相当話が出ていました。ですから今回、そういって轍を踏まずにきっと立派なトイレを作って頂けるものと思っております。

(委員)

前職で、ちょっと政治的な仕事していたんですけれど、そこの障がい者特別委員会とかいろいろな団体の方たちとコミュニケーションをとるなかで、なかなか私には気づかなかったなという問題が一つありまして、実は道路なんかに点字ブロックがあると、車いすの人たちはあれが逆に乗り越えられにくいとか、障がいの種類によって、そういったデザインの一つ一つが実は利点でもあって、欠点でもあったりすることがありますので、その辺やはり各団体の要望とかも取り入れながらやっていかないといけないのかなと。

当然図書館になってくると書架が高くなってくると上の方は取りにくいと。人員も少ない中でじゃあそういったケアをどうやっていくのか。当然ボランティアの数を増やしていく、職員の数増やしていく、そういった話にもなってくると思いますが、直接的にそういった職員を増やさなくても、例えば市民の方たちが手を差し伸べる協力してあげるとか、そういった雰囲気作りというのも必要になってくると思いますので、トータルで考えて行く必要があると思います。

(委員)

そうですね。駐車場のことで、今離れたところに作る予定になっていると思いますが、障がい者用の駐車場は建物のすぐ前に置けるようになると良いなと思います。それから図書館で言うと、例えば受付に新しくカードを作るとき、書面書くときなど、車いすの方がちょうどいい高さの受付、他の一般の方より高さが変わるかと思いますので、静岡の図書館を見学に行ったときはありましたのでそんなの良いかなと思います。それからトイレでいうと、お子さんのありますよね。

（委員）

子ども用のおトイレがあるととてもいいです。お母さんたちが覗けるというか、こういう高さになっているトイレがあると、ちょうどお手洗いのトイレトレーニングをしはじめた子にとっては良いので、そういった障がい者も含め子どもにとってもやさしい作りのものがあれば、なお利用しやすいと思います。

(花井委員長)

ありがとうございます。たくさん出てきたかなと思います。その通りで、今の図書館、結構子どもトイレ出てきています。新しく作るとか。私もよく見学に行きますけど。もうひとつ、議論はちょっと早いのがどうか分からないですが、これから図書館を語っていくときに、電子図書館というのをどこか頭に入れておかなくてはいけないかなというように思いますが、電子がいいのか紙がいいのかというそういう低俗な議論ではなくて、電子は電子図書を読むことにどういう社会、どういう人と人が繋がっているっていうところを話し合うべき部分もあるかもしれないと私は思っています。先日その事例を見ましたが、これからの電子図書は、電子図書を検索して電子図書を読んで、ただ単にダウンロードして読むというものではなくて、例えばここにあるように、資料を図書館で作り、私たちの方でも作ったビデオありましたが、それを電子図書に自らがアップできて、それをここに書いてある情報発信へと繋がっていけるという機能もできてきています。ただ単にダウンロードして本を読むというよりは、自分たちの生活の中にデジタルというものが、少し入ってきていると。もう一つあるのが本を読まなくなったとずっと子どもたち言われていますけども、本というこの文字の文化がなくした時間軸って１つあります。この時間軸をどう回復するかと言っているときに、紙だの電子だのと言っている場合ではないのではないかという研究結果があります。デジタルで読むのが好きな人もいれば、紙で読むのが好きな人もいる。またさっきの場合みたいに図書館が遠いというときに、この本はどうにかして読みたいって時に、逆にデジタルでもいいや、ということも言えるかもしれない。そういう目線でデジタルとアナログの図書館をどういうふうに、ハイブリット的に構築していくのがいいかというところも、今日は議論ないと思いますが、少しだけあってもいいかなと思いますので、皆さんの中で予習・復習していただけるとすごくありがたいなと。必ずこの議論は建てるときには絶対出てくると思います。ですのでどう構えて置くかだけでも、建てるときにはすごく必要なのかなと思っています。そのあたりで電子図書ってこうなのかなって思われた方、何でもいいのでありますか。

(委員)

タブレットが普及してきて、子どもたちってそういう機械大好きですね。そういったもので絵本とかそういったものを見せると、手でさわりながら読んだり、紙のものもよく読みますが、電子図書というかそういうタブレットという、そういうのも楽しく遊べるので、そういったものが導入されるのもありかなと思います。

(委員)

わたしもｋｉｎｄｌｅとかあるので、よく電子図書を読んだりしています。本には本の良さがあり、また通勤移動中とかですね、そういう時には持ち運びにかさばらない電子書籍がいいなというところもあります。今委員長がおっしゃられた、みなさんが地域でいろいろな文化的な取り組みをされた催しを、ビデオに映像を残していくというのは大切な作

業と思っております。で、現役で活躍されている書家の先生ですとか、お歌の先生ですとか、非常に有名な方が熱海にはいらっしゃいまして、そういった方たちの思いですとか、伝統的な文化的なものをやはり後世に伝えていく、それをまた熱海の財産として外部に発信していくという取り組みは必要だと思います。

それから事務系の仕事をしていますので、手前味噌な話をすると、デジタルサイネージというのが非常に注目されていまして、某メーカーさん、東京の方にショールームがありまして、そこにシンカーと言われるショールームがあります。デジタルサイネージにいろいろな電子書籍が写真で載ってまして、タブレットタッチすると自分のタブレットの情報がポッと入ってきてそのまま読める。そういう面白い取り組みもありまして、今後そういうデジタルを考えるのであれば、先進的な技術的なものも少し勉強していかなければいけないかなと感じます。

（花井委員長）

他にどうでしょうか？電子図書、今日私が振っただけなので、また機会あれば。いろいろなものが今、学校からも入ってこようかなというシステムも出ていますので、ネットで見てもらえば結構出て来るかなと。今おっしゃっているデジタルサイネージは確実に必要になってくると思いますので、その点もどこかソフト、デジタルですけどソフトという観点で、みなさんと議論できればと思います。時間的にも数分ですが、全体的を通して図書館のことで、もう一度これだけは言っておきたいなとか、ありますか。

（委員）

最初の見学会の感想で言い忘れましたが、途中で委員からもお話が出ましたけれども、茅野も小布施も良くしようとする人たちの力っていうのはすごくあると思います。やはりいくら図書館が出来ても、ホールができても、人のシステムというのはちゃんと構築していかないと死んだ施設になってしまいますので、その辺は並行して、よく考えて議論していきたいと思います。

（花井委員長）

ありがとうございます。他にどなたか大丈夫ですか。

（委員）

私は直営を望んでいますが、もしＰＦＩになったときに、指定管理でしたが、直営という方法はとれるのかどうかまだはっきり聞きたいと思っています。それと司書が、先ほど委員もおっしゃっていましたが、今の図書館は本当に儲けない状態だと思っています。十分に司書が専門的に活躍できない、今度はいろんな考え方はありますが、まず基本に図書館としてのまずベースを作って図書館はこんなことできるというのを、まだできるまで何年かありますでしょうから、それに向けていっても新しい図書館についてそんなところからも考えていきたいと思っています。

（花井委員長）

手段、ＰＦＩなのか、直営なのか、指定管理なのかという手段も、これから市としての検討として、ＰＦＩでも市職員が入って、そこの落札した会社と一緒にやっているというところもあります。ただあんまり上手くいってないところもあります。それはやっぱり事例をたくさん見て、考えなきゃいけないかなと思いますけども。運営をどういうふうにし

てもらうかというのは、例えばＰＦＩになったとして、どんな運営をしてもらいたいというのは、やっぱりさっきみんなが作りあがった後もということもですけど、そこに入っていかなきゃいけないと思います。だからもっともっとワークショップをして、この検討委員会でまずかなり出し尽くして、それをもとにワークショップなりをして、みなさんから出た要素を、ＰＦＩの要求水準に出していかなきゃいけないので。それが何もない中でこんな図書館を、こんなホールをというのだけ提案してもらっても、なにをしても直営でもダメなのかなと思います。例えば私たちは５３回、茅野は何百回もやったというところが、そこを支えると思います。そこをやっていけば私はどんな形にしろ、一番経済的に上がるとか、経済的に楽なものとかそういうところからも考えて図書館を建築、ホールを建築というとこが、フォーラム建築というところに入っていくのではないかと感じていますけども、市の側の考えと皆さんの考えを一つにする部分じゃないかなと思います。時間にも迫ってきました。最後に委員から一言。

(委員)

いろいろ今日は聞かさせて頂きました。非常に活発な意見をいっていただいたと思います。中でも先ほど言った今度の図書館については、非常に賑わいのこととか、それから静かにしなきゃならないこと、子どものこととかいろんなものが具体的に出てきたと思います。これは今日１回で終わりではなくて、いろいろ議論が出ると思うので、その中でひとつのいい形のものになっていけばと思いました。

（花井委員長）

今日はこれぐらいにして次回とさせていただきます。

（事務局）

みなさんありがとうございました。本日は大変多くの貴重なご意見いただきまして、事務局の方といたしましても、今後基本計画（案）の策定の作業に入るわけでございますけども、みなさまもご意見もちろんでございますけども、しっかりと受け止めまして、まとめの作業もしっかりと行なっていきたいと思いますので、宜しくお願い致します。

次回の第６回の検討委員会の開催ですけども１２月１７日（水）になります。時間は１７日につきましては、３０分早めさせて頂きまして、午後１時３０分からの開催となります。場所につきましても、以前一度行いましたけど会場が変わりまして、隣の第３庁舎会議室になりますので宜しくお願い致します。これは事前にまたお知らせいたしますので、宜しくお願い致します。

次回につきましては、議論の内容でございますけども、３つの機能で謳っております、大きな課題ですけど、市民ホールの方の内容につきまして主にお願いしたいと思っておりますので、宜しくお願いします。以上でございます。本日はどうもありがとうございました。